

着

mono 通信

yoroduya

2026・3
vol.90



よろづ屋
着物・和のこと Salon

原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさんこんにちは！3月になりました！ついこの前お正月を迎えたと思っていたら、もう3月です。卒業・入学シーズンでお着物を着る方も多くいらっしゃると思います。久しぶりに着物を出してみたら、シミや汚れ、色やけやカビが～なんてことも多々あるかと思えます。やはり、1月2月の乾燥している季節に虫干しを兼ねて点検したいところです。虫干しが面倒で…という方には、着物用の保管袋（きものキーパー、きもの休息など）がおすすめです。たとう紙に入れた状態のまま、ジッパーがついているビニール製の保管袋にしまっておくとカビや黄変、変色などを防いでくれます。一枚2,200円～3,300円ですが、一枚にお着物3枚くらいは余裕で入ります。気になる方は店頭でご相談ください！今月は暖かくなって過ごしやすくなりますように…

<第3回ちょっとしたパーティー開催しました>

2月8日（日）に原ノ町駅前「ホテル丸屋グランデ」において、よろづ屋主催の「第3回ちょっとしたパーティー」を開催しました。みなさんそれぞれに好きな着物のコーディネートで美味しいお食事とおしゃべりと共に楽しい時間を過ごしました。



丸屋さんのご協力で今回もゆったりと楽しい時間を過ごすことができました。お食事は和食のコースを堪能しました。自己紹介コーナーでは皆さんそれぞれに着物を着ることの楽しさや、ご自身の活動など楽しくお話ししてくださいました。恒例となりました、なかなかビンゴにならないビンゴ大会も大変盛り上がりました。着物を着る機会が少なくなっている今こそ、このようなイベントの開催は大切だと感じました。皆さんに喜んでいただける企画をこれからも開催していきます！



♪情報サービスのご案内♪

よろづ屋では、催事やイベントなどのご案内をLINEやSNSなどで発信しております。ぜひフォローしてよろづ屋をもっと知ってください！



ホームページ



instagram



Facebook



X



LINE

< お客様コーディネート紹介コーナー >

当店のInstagramやFacebookなどで紹介させていただいております、お客様のコーディネートをご紹介いたします！今回はちょっとしたパーティーのコーディネートをご紹介します！

西陣御召に袋帯。ブルーの細かい蔦柄が織り込まれた御召はカジュアルでもフォーマルでも帯次第で万能に。格の高い古典柄の袋帯が主役の装いになっています。



唐子文様の訪問着に箔屋清兵衛の袋帯。ロイヤルブルーが美しい訪問着に王道の袋帯がピッタリです。格があるフォーマルのお手本のような装いです。



薄紫の色無地に大庭の名古屋帯で同系色のコーディネート。色無地に個性的な帯が映えています。帯揚げにも同系色を使いスッキリとした装いに。



成謙工房の色無地に、となみの袋帯。色無地だからこそ引き立つ大胆な柄の袋帯が際立っている装いです。小物は色味を抑えて、全体のバランスを整えたコーデです。

<きもの語 辞典>まの巻

着物に関して、わからない言葉や知りたい言葉などたくさんあると思います。専門用語が飛び交う中で??に思うことも多々ありますよね。そんな着物にまつわる言葉を集めて簡単にご紹介していくコーナーです。

<前下がり(まえさがり)>腰紐や帯を締めるときに、前下がりに締める着付のスタイルの一つ。落ち着き感と着慣れた印象になります。仕立てで、羽織やコートなどを着物の上に着たときに裾が水平になるように、前見頃の丈を3~4cmほど長めにする事です。

<前つぼ(まえつぼ)>履物の花緒をつま先で留める部分のことをいいます。「先つぼ」ともいいます。

<松葉仕立て(まつばじだて)>名古屋帯の仕立て方の一種です。お太鼓部分は両端をかがり、手先だけを半幅に折って仕立てたものです。

<マルキ>大島紬における緋糸の本数の単位。1マルキ=緋糸80本。5マルキ、7マルキ、9マルキと緋糸が多く用いられるほど模様が緻密になります。

<きもの歳時記>

~知って楽しい和の知識~

着物王国新潟 - 雪国が育てた、きもの歴史



日本有数の豪雪地帯・新潟。長く厳しい冬のあいだ、人々は家の中で機を織り、布づくりの技を磨いてきました。雪国特有の湿り気を帯びた空気は糸にやさしく、しなやかで丈夫な織物を生み出します。自然とともに育まれた手仕事の文化が、今もこの地には息づいています。なかでも十日町市や小千谷市、塩沢地方は、日本有数のきもの産地として知られています。味わい深い風合いが魅力の十日町紬、さらりとした肌触りで単衣にも心地よい塩沢紬。そして、雪晒しによる清らかな白が美しい越後上布や、涼感あふれる小千谷縮など、初夏から盛夏に向く織物も揃います。紬のぬくもりを楽しみながら、季節が進めば単衣へ、そして涼やかな夏布へ。新潟の織物は、一年を通して私たちの装いに寄り添ってくれます。今月は、原町本店においてそんな雪国の手仕事を一堂にご紹介します。織りの表情、軽さ、肌ざわりなど、ぜひ実際にお手に取ってお確かめください。



・・・女将のつぶやき・・・

みなさまご存知の「日清・どん兵衛」私たちが住む東日本と西日本では味が違うのをご存知ですか？私もそのことを知ったのはつい8年ほど前。京都の間屋さんで、当店に出張で来た際にコンビニでどん兵衛を買って食べたところ、醤油が濃すぎて食べられなかったという話を聞いて、初めて違うのを知りました。その後、西のどん兵衛を手に入れて食べてみることに…色が薄い…ほとんど出汁で食べるようなどん兵衛。こんなのどん兵衛じゃない！と思ってみたら大間違い。美味い！すごく美味い！それからというもの西のどん兵衛のとりこになりました。関西方面にお出かけの際はゲットしてみてください！

